



あすもりサポーター通信



1月25日に、第4回北海道の森づくり交流会を開催しました。 今年のテーマは「森を活かせば、地域と人が育つ」

今年の「北海道の森づくり交流会」は全道で200名近くのみなさんが集い、森の活用や木を使うことを考える場として交流しました。

昨年同様、札幌、旭川、帯広、苫小牧、函館、釧路、北見の7会場を、TV会議ネットワークでつなぎ、第一部は札幌会場から同時中継して全道でご覧いただき、第二部は各地区ごとに、組合員さんと地元の森づくり団体や助成団体のみなさんが互いの活動の紹介をしたり、今後連携できる企画がないかなどの意見を交わしました。



第一部報告

「森と暮らしをつなぐ西粟倉村の挑戦」 牧大介さん



牧 大介さん

第一部の特別講演では「西粟倉村・森の学校」代表取締役の牧 大介さんにお話しいただきました。岡山県の北東部にある西粟倉村は人口1600人ほどの小さな村です。2004年に当時進行していた市町村合併を拒んで、自立の道を選びました。約50年前に子や孫のために木を植えた人々の想いを受け継ぎ、森林を地域資源としてとらえ、産業と仕事を生み出そうと村民に呼びかけ、村内で意見会を重ねました。そして2009年から、立派な森林に育て上げるために、この先50年を村ぐるみで挑戦する「百年の森林事業」を続けています。西粟倉村では山林放棄地が増えないように、山村所有者が村を離れる時には、森林管理契約を村と締結してもらっています。

「森の学校」は百年の森林事業の一環として、木材の活用・木製品の販売を主な目的に、2009年に設立されました。代表である牧さんは、地域と消費地の人をつなぎながら、「ファン」をいかに増やし、地域を元気にし、経済を循環させるかに尽力しています。

最初は資金を集めるために「共有の森ファンド」を立ち上げて、村の森林への小口投資家を募りました。現在では423名の小口投資家＝「ファン」が全国各地にいます。「ファン」はただ出資するだけでなく、「木」をいかした商品を割引料金で購入することができるようにしました。「木」を使ううちに、「村」が好きになり、村に移住する人が増えてきました。移住者には得意な仕事を起業してもらいます。

こうして生まれたベンチャービジネスが林業関連やレストランなど、現在10社ほどあります。それらの会社を通じて、新たなファンがまた増えていく。そんなステキな循環が地域を元気にしているというお話でした。

豊かな森林がある北海道でも実現可能なプランだと思います。そんな地域や団体が誕生するといいですね。



「NPO法人トカプチの森との交流」 帯広地区から



今年は帯広地区から『未来の森づくり・帯広地区交流報告』の発表がありました。2012年度の高額助成団体のひとつ、「NPO法人トカプチの森」との交流報告です。あすもり基金の設立以前、十勝総合振興局林務課の呼びかけで集まった「木緑ネットワーク」の一員として出会い、現在も植樹やふれあい企画で協力するなど、活発な交流が続いています。今年度は特に、夏休みに実施した「ふくしまキッズ」の受け入れでお世話になり、東日本大震災被災地の子どもたちが

「NPO法人トカプチの森」の所有林を訪れ、十勝の自然をたっぷり満喫したそうです。

第一部では、このほか、2013年度高額助成団体のNPO法人苫東環境コモンズの草刈 健さんの助成団体活動報告『「薪づくりとフットパス」を核とした大島山林の修景と新生産』、Fの森メンバーの吉川 和征さんによる『Fの森 2013年度ワークショップ報告』、2014年度助成団体への助成金贈呈式を行いました。



7月に受け入れた、福島県の子どもたち

第4回北海道の森づくり交流会報告 第二部報告 「森を活かそう！ワークショップ」(札幌会場)

札幌会場では交流会の第二部として、「森を活かす」をテーマに、参加者全員でワークショップを行いました。8グループに分かれて意見と知恵を出し合い、北海道の樹木を使った新製品を企画しようという、新しい切り口の取り組みです。今年はまだ企画するだけでなく、優秀な作品は広報誌「モリ・イク」の読者プレゼントとして採用されるというワクワクする内容でした。

最初に、黒板消しストラップなどで有名な札幌の木製品工房・チエモク(株)の三島千絵さんに、「森を活かす商品開発」と題して、素材の性質を活かした製品づくりのポイント、アイデアの考え方などを説明していただきました。チエモク(株)さんには最優秀のモリイク賞のアイデアをもとに、読者プレゼントを制作してもらいます。

ワークショップでは、8グループにわかれての話し合いと苦心の末、それぞれ特徴のある案がだされました。



真剣に、楽しく、アイデアをかたちに!

- ・Aグループ **モリパーシ**：北海道産木材を使った オセロ
- ・Bグループ **もりん(もくりん)**：～森の音色を おうちで～
- ・Cグループ **4(for)レスト**：ミニトレイ 道産の4種の木を使って色をだす
- ・Dグループ **万能えくぼ**：おまんじゅう型お守り なでて安心、願いもかなう。
- ・Eグループ **カップのペンダント**：Fの森白樺の樹液を飲んで健康になろう
- ・Fグループ **デンデンストラップ**：北海道の木(音ストラップ)を楽しむ
- ・Gグループ **アロマクラ**：～お家で森林浴～冬はポカポカ 夏はヒンヤリ
- ・Hグループ **ダルマ音(おと)し♪♪**：たたいて木!! 音色を楽しむ木を覚える



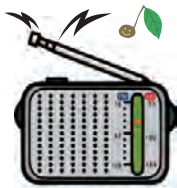
最優秀のモリイク賞を受賞した、Dグループの作品アイデア

どれも魅力的な作品アイデアで、審査員の方々には受賞作を選ぶのに苦労されていました。最優秀の「モリ・イク賞」には、Dグループの「万能えくぼ」が決まりました。今年の秋には読者プレゼントとして、2014年9月発行の「モリ・イクNo.8」に登場予定です。出来上がりをお楽しみに!

他地区の地区別交流会は次号でお知らせします。

Air-Gで放送中! 過去の放送も聴けます。

「コープさっぽろ プレゼンツ スマートライフ ～あの人の話が聞きたい～」



FMラジオ

- 2014年 2月2日放送 ゲスト:牧 大介さん
- 2014年 2月16日放送 ゲスト:草刈 健さん

毎週日曜日の朝7時30分～7時55分、AIR-G(エフエム北海道)で「スマートライフ～あの人の話が聞きたい～」という、コープさっぽろ提供の番組が放送されています。

今年の2月2日には「第4回北海道の森づくり交流会」で講演していただいた「(株)西栗倉村 森の学校」の牧大介さんがゲスト出演しました。森という地域資源を掘り起こし、経済の仕組みを創り直すお話を語ってくださっています。

2月16日には苫小牧を活動拠点とする「NPO法人苫東環境コモンズ」の草刈 健さんがゲスト出演。同法人が進める「コモンズ」という手法による、地域住民と一緒に取り組む森づくりについて語ってくださっています。

番組のホームページで、過去の放送を聴くことができます。どうぞお聴きください。

- 放送日時 毎週日曜日AM7時30分～7時55分
- 番組名 AIR-G(エフエム北海道)「コープさっぽろプレゼンツ スマートライフ～あの人の話が聞きたい～」
- 周波数 FM 80.4MHz ● 番組ホームページ <http://www.air-g.co.jp/sl/>

あすもり事務局から

2014年度の助成団体が決定! 23団体を応援

北海道内で森づくりや木づかいに取り組む活動や団体を資金面で応援する、あすもり基金公募助成制度の2014年度助成団体が決定しました。今年は基金設立5周年を記念して助成金を増額し、高額助成で3団体、小額助成で20団体に助成することになりました。

助成団体名は、ホームページやFacebookでご紹介しています。植樹や育樹、間伐といった森づくりの実践活動から、木製玩具や木育プログラムなどの林産物活用まで、森の循環に必要な幅広いジャンルの団体がそろっています。ぜひ一度ご覧ください。

<http://www.coop-sapporo.or.jp/contents/view/id/82>

あすもりのドングリマークを真ん中
に入れたQRコードが出来ました。



携帯電話などのバーコードリーダーで撮影すると、あすもりのFacebookページを開くことができます。

<https://www.facebook.com/coop.asumori>

森の本

毎号1冊、森づくりに関する
おすすめの本を紹介します。

著者：宮沢賢治
絵：片山 健
発行元：ミキハウス



宮沢賢治の童話は里山を舞台にした作品が多く、動物や自然に親しみを覚えていた作者の心が伝わってきます。変わった森の名前が特徴的な本書は、岩木山の麓の村が舞台。村人と森、動物があたりまえのように会話しながら、ユーモアたっぷりに話が進みます。人が自然の声に耳をすまし、礼儀をつくっていた昔の里山の暮らしぶりが見えてきます。他に、「グスコブドリの伝記」や「どんぐりと山猫」という作品もおすすめです。